



# 会報

No. 33

—54. 10. 1—

みやま文庫

## 五十四年度の配本

本年度の第二回配本「群馬のたぐい」をお届けいたします。

なお以降の配本については次の二冊を準備中です。

### ○群馬の鳥を探る(第三回 五五年一月)

県内に生息する鳥類の、その環境、習性と形態、分布、貴重種等について卯木達朗氏の研究に成るもの。

### ○群馬の夢めぐり(第四回 同年三月)

県内にある歴史上有名人その他、各層に亘る人の墓について略歴を付して記述、研究家十余名分担。

## 73 群馬の句碑 丸山知良

県警教養課で発行している月刊誌「上手警友」に四十二年一月号から昨年十二月号まで連載された「上手句碑めぐり」をまとめた。もちろん連載中の十一年間は著者一人で書き続け、休載は一度もなし。全部で百三十二回を数え、この中から句碑百三十基を紹介している。(中略)

今回、句碑を手がけたのは「詩碑は知られているが句碑はあまり知られていない。俳句は文学というより生活の一片を文字にしたもので、群馬の特徴がよく出ているのではないか」と思ったため。毎月、ひとつずつ句碑を訪ね、自分の目で確かめて原稿にした。すべて写真付きで、俳人の紹介や句碑の大きさ、形が細かに書かれている。

登場する俳人は本県出身者や本県と何らかの形でかかわりあった人たち。村上鬼城、相葉有流、水原秋桜子、高沢夢亭らが名を連ねている。しかし丸山さんは作品の中で、群馬の特徴がよく出ていて好きな作品は川名句一歩の

上州の仁侠の炬はこころ安

だという。「句一歩は群馬の人間ではないが、よく上州人の特徴をとらえている」とたたえる。(略)

(毎日新聞 昭五四、七、二)

## 72 鬼城・零余子

相葉有流  
中里昌之

田島武夫

待望の書である。相葉有流・中里昌之両氏の共著。共著といっても内容は「虚子と群馬」「村上鬼城」「長谷川零余子」の三本立てになっており、「虚子と群馬」を相葉有流氏が、「村上鬼城」を中里昌之氏が、さらに「長谷川零余子」は両氏が執筆という共著ぶりである。

待望の書というのは、村上鬼城・長谷川零余子ともに郷土の俳人として出色の人であり、人口に膾炙(かいしやく)されながら、その素体については知られざる部分がいへんある。その大部分とまではいかないにしても、その未知の部分に相当解明されている。これ

は郷土に生きる俳人として、郷土作家としてありがたいことである。

鬼城・零余子ともに大正期初頭に現出した「ホトギス」第一期黄金時代を支えた。十指に満たない花形作家である。鬼城は、虚子をして、境涯の俳人として古今独歩を嘆せしめたし、零余子は、虚子にかわって一時代、ホトギス編集にあたったし、これはエポックメーカーだったのである。それが群馬俳壇とどうかかわりがあったのか。その間の事情を「虚子と群馬」がよく語っている。

筆者(田島)は弱冠のころから鬼城の死にいたるまで、鬼城に就いて来た。だからバダカの鬼城も知っている。だから鬼城の好みも知っている。が、それだけに正面切ってこの人を書くとなると、筆が縮んで書けない。だからかえりみて他をいろいろなことばかり書いている。そこを新鋭の学究中里昌之

氏は抑り下げて書いておられる。そこには新発見もある。殊に「生活史的に青年期までの人間鬼城とその作品を育んだ環境に的をぼった」ということは賢明であり、立派である。

零余子については、その出生についての考察がいちばんおもしろい。鬼城に生まれたのか境町に生まれたのかということ。この例証については詳細をきわめている。(後略)

(上毛新聞 昭五四、八、一三)

### 新会員募集

五十四年度からの入会を受付中です。ご希望の方は会費(年額一八〇〇円)を添えてお申込下さい。

〒313 前橋市日言町一丁目一四一  
群馬県立図書館内

## みやま文庫事務局

電話前橋三二四二四四番

昭和54年度予算

収入

科目	目	予算額	摘要
会費	補助金	10,220	会費 8,650人分
寄附金	収入	1,200	県補助金
雑収入	越金	702	送料、既刊圖書分売代、利子
繰越金	計	200	前年度繰越金
		12,382	

支出

科目	目	予算額	摘要
人件費	職員給与費、旅費	2,610	
会議費	理事会、企画会議、幹事会費	60	
原稿料	原稿料 4巻分	540	
編集費	資料調査費、編集諸費	200	
印刷費	文庫4巻印刷費	7,600	
発送費	郵送料、配本費	720	
事務費	事務費、備品費	220	
諸予備費	会費振替払込料負担、普及諸費	182	
	計	200	
		12,382	

収支差引残 0円

〒371 群馬県立図書館内  
前橋市日吉町一丁目14-8

みやま文庫事務局

電話 前橋 (81) 3008 番  
振替 東京 4-14259 番



会報

号外

-54.8.1-

みやま文庫

◆ 五十四年度のプラン

五十四年度の配本計画は次のとおりです。ご期待下さい。

○ 群馬の現代小説

県文学賞第一回より第十回までの受賞作品十篇に、浅田晃彦、江口恭平氏による解説等を付す。

○ 群馬のたべもの

明治、大正、昭和三代にわたる古き時代の「群馬のたべもの」を生活に即して紹介。武藤典氏執筆。

○ 群馬の鳥を探る

県内に生息する鳥類の、その環境、習性と形態、分布、貴重種等について卯木達朗氏の研究に成るもの。

○ 群馬の墓めぐり

県内にある歴史上有名人その他、各層に亘る人の墓について略歴を付して記述、研究家二十余名分担。

◆ 住所その他の変更

会員で住所、勤務場所その他、配本等に関係ある事柄に変更のあった場合は必ずご一報下さい。ご連絡をいただきますと当方よりの連絡の不遇や配本の遅延、混乱等を招きますので、何卒お忘れないうちにご連絡をお願いします。

◆ 五十四年度の予算

当該予算について次に掲げました。ご了承のうえご協力下さるようお願いいたします。